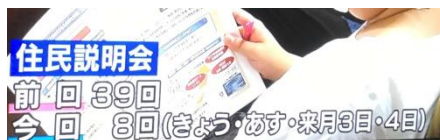


住民説明会と資料

今日 26 日から大阪市廃止・特別区設置に関する住民説明会が始まった。写真は夕方の NHK ニュースを自宅で撮ったものだ。住民説明会は前回 5 年前の 39 回から、8 回へと大幅に減った。コロナ禍の影響によるものであり、ここにも大阪維新の会が強引に進める住民投票の問題点があらわれている。



写真の会場は中之島の大阪中央公会堂であり、多くの人が詰めかけている。「密」を避けるというが、かなり密集している感じだ。24 日の産経新聞朝刊によると、この会場は定員 470 人に 934 人が申し込み、2 倍近い倍率だったという。



私も応募したが、残念ながら「落選」の知らせが直前に届いた。

写真を見ると、多くの人が発言しようと挙手している。私も参加していたら、大阪市廃止のデメリットなどを発言するため準備していた。参加した知人によると、挙手したが当てられず悲しくなったという。松井市長らの「説明」が長く、フロアからの発言時間はたった 20 分。予想はしていたが、こんな一方的な説明会で、市民の不安や疑問が解消するとは思えない。



写真下は全戸配布 (昨日、自宅にも届いていた) される説明資料である。これについて、朝日新聞 26 日朝刊は次のように報じている。

住民説明会で、市は各政党の主張をまとめたチラシを配らないことに決めた。前回と異なり、都構想を推進する大阪維新の会の主張に沿った市のパンフレットだけを使う予定。反対派の主張は会場で周知できず、反発を招きそうだ。松井一郎市長は 25 日、記者団に「(賛成・反対派が) 主張しあえば混乱する」と説明し、住民説明会では市がまとめたパンフレットだけを配る考えを示した。「あおり合戦みたいになるのが嫌だ」「役所で作ったパンフレットをもとに冷静に判断していただきたい」とも主張した。

そもそも今回のパンフレットは、維新寄り過ぎるとの批判があった。広報全般について助言する専門家である市の特別参与が作成段階で「メリット一色の印象を受ける」「『よくあるご質問』は、全てが制度のアピールになっている」と指摘。これについて松井氏は 25 日、「(一部指摘について) 特別参与が間違っている」と反論。指摘を受けて担当部局が修正したことも「甘い」と批判した。

修正したパンフレットもメリットばかりが並んでいる。住民説明会について続報する。

(2020 年 9 月 27 日)